

# 代表者会議【資料 2－1】

## 茅ヶ崎市自立支援協議会 報告書

件 名	令和6年度第1回 就労・生活支援部会
日 時	令和 6 年 6 月 18 日（火） 16:00～17:30
場 所	ちがさきエボシライン
事 務 局	地域生活支援センター 元町の家
部会委員 及び サポート メンバー	<p>■ 高野 宏章 部会長 （ちがさきエボシライン）</p> <p>■ 鈴木 悠哉 副部会長（プラーナ湘南）</p> <p>■ 青木 暢彦 委員 （茅ヶ崎市障害者施設連絡会）</p> <p>□ 渡部 司 委員 （湘南地域就労援助センター）</p> <p>■ 菅 利光 委員 （神奈川県立茅ヶ崎支援学校）</p> <p>■ 三浦 紗恵美 委員 （神奈川県立茅ヶ崎高等学校）</p> <p>■ 和田 由美子 委員 （茅ヶ崎市社会福祉協議会障害者生活支援センター）</p> <p>■ 鈴木 健太 委員 （茅ヶ崎市役所障がい福祉課）</p> <p>□ 瀬川 直人 氏 （オブザーバー／ちがさき基幹相談支援センター）</p> <p>□ 鐘ヶ江 麻里子 氏 （オブザーバー／ちがさき基幹相談支援センター）</p> <p>■ 竹内 智洋 事務局 （地域生活支援センター 元町の家）</p> <p>□ 金野 宏美 事務局 （地域生活支援センター 元町の家）</p> <p>■ 鈴木 氏 （オブザーバー／茅ヶ崎市役所障がい福祉課）</p> <p>■ 池元 氏 （オブザーバー／茅ヶ崎市役所障がい福祉課）</p> <p>※ ■出席 □欠席</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己紹介</li> <li>2. 今年度の活動について</li> <li>3. 今年度のゴール設定について</li> </ol>
検 討 内 容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己紹介（～16：10）</li> <li>2. 今年度の活動について（～16：20） <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度より委員となった方々へこれまでの活動内容を説明。</li> <li>・職場体験実習の目的が「社会参加の機会の提供」と「障害者雇用の普及啓発」であることを説明。</li> <li>・令和 6 年度、7 年度の活動に関して、活動予定表を基に説明。</li> </ul> <p>テーマ① 進路に関する普及啓発をする → 就労系サービス</p> <p>テーマ② 職場体験実習を地域におろす → 市内 B 型事業所に職場体験実習のノウハウを伝えていく</p> </li> <li>3. 今年度のゴール設定について（～17:30） <p>上記活動テーマ①、②に関して説明後、活動の具体的な内容を検討。</p> <p>○まず、テーマ②について協議を行う。</p> <p>これまで、市内 B 型や地活へ職場体験実習に関して求人票を作成し、メールにて実習体験者を募るが、応募がほとんどない。</p> <p>どのようにしたら、B 型や地活から実習参加者が出てくるのか？</p> <p>地域の現状を各委員に確認し、協議した。</p> </li> </ol>

- 茅ヶ崎支援学校では、不登校気味の生徒は、ノルマがない地活を実習先・進路先として提案している。  
また、求人票を見ると学校側から見て、職場体験実習の内容がハードル高いと感じてしまう。  
茅ヶ崎支援学校では、卒業生の約 1 割（5～6 名程度）の生徒が就職しているのが現状。  
教育活動の中で「実習」を行っており、学校側のスケジュールもあるので、「職場体験実習」に合わせるのは困難。
- 茅ヶ崎高校でも「働く体験」を 2 年生時にしている。3 年生時には「就労」を目的とした働く体験の機会を行っている。  
職場体験実習先の企業たちが生徒の実習先として選択肢に増えたら、ありがたい。
- B 型利用から就職している方々は、年間で 3～6 名程度。

B 型の利用者に職場体験実習の情報が届いているのか？

- 職場体験実習を行った利用者の声を届けることで、B 型事業所職員や B 型利用者に職場体験実習への興味や実情を正確に知ってもらうのはどうか？
- 職場体験実習のレベル感を知らないのでは、体験参加につながらないのではないか？
- 利用者目線で、就労したい人のニーズやどういう情報が欲しいのか？を考慮して情報の提供をするのはどうか？  
いきなり職場体験ではなく、職場体験実習先の見学をして雰囲気やまずは感じてもらい、加えて実際の仕事をちょっとだけ体験するなどステップ別にするのはどうか？
- 相談において働きたいという相談をする方がいるが、生活面の基盤を安定させるのが先ではないか、と感じる方が多い。  
B 型に通っている方々の中でも、就労したい方もいれば、長く B 型に通いたい方もいる。  
その上で、職場体験実習の情報が広まるのは良いことだと考える。
- 職場体験実習先の評価が、本人の自己理解につながることもある。

### ●今回の協議結果では

職場体験実習への最初の一步の踏み出しやすさが重要ではないかとの考えに至った。

そのため、求人票の見せ方の工夫や職場体験実習先の見学会、または動画による職場体験実習先の説明などにより、「実習したい」と思わせる手法を引き続き検討していくこととなった。

### ○次に、テーマ①について

地域での現状を整理。

- 市内では、茅ヶ崎支援学校が実施する「事業所説明会」が、大きな福祉サービスを説明するイベント機会。  
現状、学校側としては、参加する事業所数も増えてきており、正直体育館で行っているが、キャパオーバー気味。

## 代表者会議【資料２－１】

	<p>→ 近隣市だと、自立支援協議会などが中心となり行政が主催しているところが多い。</p> <p>→ 茅ヶ崎高校では、保護者会などで福祉サービスの勉強会などを行うが、親が来てくれない。</p> <p>→ 会場費は市が予約すれば免除になるかもしれないが、それ以外の費用については、今年（2024 年）秋頃までに予算計上しないと、来年度の開催が難しい。</p> <p>新たな福祉フェアとして事業所説明会を開催するにしても、資金面でスポンサー探しをしないと運営費用（開催費用）を賄えない。</p> <p>●今回の協議では</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就労系サービスの周知イベントを行うのであれば、スポンサー探しのため、商工会に協力を仰ぐ。</li> <li>・企画書の作成や必要経費の予算建て。</li> <li>・8 月の自立支援協議会運営会議への今回の部会にて打ち出した提案＝就労系サービスの周知イベントを開催する提案を諮り、運営会議参加者から意見や助言を聴取する。</li> </ul> <p>といった点を踏まえ、令和 7 年度中に就労系サービスの周知イベントを開催できるか否か引き続き検証し、活動していくこととなった。</p>
課題・懸案事項	<p>課題・懸案事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就労系サービスの周知イベントの実現可能性</li> <li>・実現可能か否かを検証する部会活動の実施回数やスピード感</li> </ul>